

# 事業報告書

平成 28 年 12 月 1 日～平成 29 年 11 月 30 日

公益財団法人 東京コミュニティー財団

## 1. 当期の概要

当期も、引き続きコミュニティー財団としての事業拡大を目指して、新たな基金の設立に向け、寄附検討者等との面談を通じ、当財団の設立目的、事業概要の説明等、民間の自主的な社会貢献活動における「コミュニティー財団形式」の理解と啓蒙に努めた。

当財団はコミュニティー財団であり、自ら非営利活動を行う一般的な団体とは異なり財団自らが実際の社会貢献活動を行わないため一般的な理解が得られにくい特性があるが、寄附検討者等との実際の面談において、当年度もその認識を強く持つこととなった。寄附検討者との面談においては、コミュニティー財団の「形式」と「その意義」の説明に相当の時間を必要とした。寄附検討者には、既に個人で寄附等の社会貢献活動をされている方が多くいるが、自身が関与されている非営利団体等へ必ずしも助成できるわけではなく、広く公募を行った上で財団内の手続を経て決定される旨の説明を行うと、当財団への興味を失う方も散見された。一方で、個人の寄附検討者との面談においては、高額な基金設置を検討する方との面談の機会を得て高額寄附のニーズについて理解を得ることができた。当財団では、基金の元金を保持し運用益から助成を行う永続型の基金を設立したことが現在までないが、そうした寄附検討者のニーズに適うとともに、当財団の基盤を拡充することができる基金として、今後の具体化に向けて準備を行った。

他方で社会貢献活動を行う団体等からは、当財団の活動に対する期待感は極めて大きいと感じられた。通常の助成希望の相談に加え、当期はプロジェクト型基金での助成希望団体との面談を通じて、同形態の基金についての研究も行った。

上記の永続型、プロジェクト型基金について財団内での検討が行われ、今後の寄附検討者、非営利団体等のニーズに応える準備を行うことができた。

当期の活動の結果、既設基金の1つについては昨年引き続き助成を実施した。また、新設基金については、来期以降の設立を見据え引き続き検討を進めていく方針である。

## 2. 資金の獲得

- (1) 寄付金：ファンドクリエーション基金へ法人より 50 万円、財団運営全般への寄付として法人より 60 万円、計 110 万円の寄付をいただいた。
- (2) その他：補助金等、その他寄付以外による資金獲得はなかった。

## 3. 助成事業

ファンドクリエーション基金より、10 件の非営利組織へ計 50 万円の助成を行った。

## 4. 広報活動

最小限の費用で効果的な広報活動を行う方策を模索したが、具現化することができなかった。

5. 管理関係

<評議員選定委員会>

開催日	報告事項	決議事項
平成 29 年 2 月 15 日	—	評議員 3 名選任の件

<評議員会>

開催日	報告事項	決議事項
平成 29 年 2 月 27 日	第 8 期 決算報告の件	(1) 第 8 期 事業報告書、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録、付属明細書の承認の件 (2) 理事 1 名選任の件 (3) 監事 1 名選任の件

<理事会>

開催日	報告事項	決議事項
平成 28 年 12 月 27 日	第 8 期 第 4 四半期 業務執行状況報告	—
平成 29 年 2 月 10 日	第 8 期 事業報告、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録、並びにこれらの付属明細書等の報告	(1) 第 7 期 事業報告書、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録、付属明細書の承認の件 (2) 評議員選定委員会の招集の件 (3) 評議員選定委員会に対する評議員候補者 3 名推薦の件 (4) 定時評議員会の招集の件
平成 29 年 2 月 27 日	—	(1) 代表理事選任の件 (2) 事務局長選定の件
平成 29 年 4 月 25 日	第 9 期 第 1 四半期 業務執行状況報告	—
平成 29 年 8 月 3 日	(1) 第 9 期 第 2 四半期業務執行状況報告 (2) 内閣府による立入検査の件	—
平成 29 年 11 月 7 日	(1) 第 9 期 第 3 四半期業務執行状況報告 (2) 内閣府への報告書提	第 10 期 事業計画、収支予算書承認の件

	出の件 (3) 業務改善に向けての 取組みに関する件	
平成 29 年 11 月 27 日	(1) 寄附金管理規程及び 申込書（案）の内容 検討の件 (2) 高額の寄附検討者と の面談内容について	「ファンドクリエーション基金」 今年度助成先の承認の件

<助成委員会>

開催日	報告事項	決議事項
平成 29 年 11 月 24 日	—	「ファンドクリエーション基金」 今年度助成先の決定の件